

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人 つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	長崎県佐世保市大和町1114番地2		
自己評価作成日	平成 27年 10月 5日	評価結果市町村受理日	平成 27年 12月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270201637-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270201637-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしており、利用者・職員の信頼関係も深く、昔ながらの大家族といった感じですが。“その人らしくいきいき”をモットーに、いつも笑顔の絶えない優しさに溢れた明るいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは町内会に加入して地域の一員として交流し、公民館行事に職員が参加したり、近所の方に日頃からあいさつするなど、入居者の見守りや安心感にもつながっている。運営推進会議のメンバーには地区の公民館長を含め地域の方などが多く出席されており、運営推進会議での意見を積極的に取り入れ、運営に反映されていることが窺える。いつも入居者の傍に寄り添い笑顔で優しく接していらっしゃる前理事長が急逝し、その意志は現理事長へと受け継がれ、4月から新たに就任した管理者と共に職員が力を合わせ、「優しさ」というキーワードが職員にも浸透しており、地域の方からも支えられながらホームを運営されていることが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念であり、地域の方に親しまれる様、地域とのふれあいを大切に、行事にはなるべく参加し、実践に取り組んでいる。	地域を意識した理念として「地域に愛され親しまれ頼りにされるグループホームを目指します。」と掲げ、ホームからも情報を発信するなど地域と積極的につながりを持たれていることが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方から、果物や野菜又は釣れた魚などを頂いたりしている。公民館の行事に参加し、夏祭りには招待して下さったり、挨拶は勿論、何気ない会話を交わせる様になっている。	公民館行事に職員が参加したり、近所の方に日頃からあいさつするなど、入居者の見守りや安心感にもつながっている。町内会に加入して地域の一員として交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館で認知症についての話をしたり、健康体操の指導をさせていただいたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表を初め、8～9名の方が出席され、職員も含め毎回約15名程で会議を実施している。ホームへの理解を深めていただきながら、又、ご意見を頂戴しながら、サービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議のメンバーには地区の公民館長を含め地域の方などが多く出席されている。会議で提案があった入居者ができることとしてぞうきんづくりを行い、学校に届けることを計画中で、意見を積極的に取り入れ運営に反映されていることが窺える。欠席者には議事録を郵送等している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に担当者より助言をいただいている。また、運営推進会議内で話し合ったことを提言させていただいている。	職員の目を盗んで出ていくような入居者への対応について相談した事例がある。事故報告についても市町村へ報告している。尚、最近の事故事例はない。数年前にはいきいき体操を実施したことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者は常日頃より拘束はしませんが家族や職員に言っている。玄関は基本的に自由に入出入り出来る様にしているが、外に出て行かれる方の内の1人が、出て行った先で具合が悪くなったり、帰り道が判らなくなったりしたことがあった為、職員の手薄になっている時に限り、玄関の施錠を行っている。	職員は年1回の勉強会や外部研修会に参加して身体拘束について理解を深めている。マニュアルについても整備されている。代表者は優しく声をかけるよう日頃より話している。日中、玄関への施錠は行われていない。尚、家族からの要望により転倒防止のためにセンサーを使用する方がいる。	玄関のセンサー使用については家族にも説明されているので、重要事項説明書等に明記し文書として残しておくことが望ましい。また、転倒防止のためにセンサーを使用する方については、引き続き職員や家族とも話し合いながら、同意書を残しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んできた事を勉強会の時に発表している。今後も研修に参加し、虐待防止を徹底する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度自体の理解はまだまだ不十分な所がある。更に研修に参加する等して理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行いご理解いただいている。改定を行う時には、家族会にて時間をかけて説明を行っており、疑問や不安な所は、いつでも対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や来設された際、また、電話対応時など、ホームへの意見や要望が気軽に話せる様に努めている。	家族の来訪時にケアプランの説明のほか、要望を聞くようにされている。玄関には意見箱を設置している。家族から本人のできることへの支援について相談を受け実践するなどの事例が窺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申送りや月1回の勉強会で職員の意見を聞いている。又、勤務の中で意見があれば、すぐに言える様な雰囲気作りをしており、改善に向けて努力をしている。	代表者は月に1回の会議ではできるだけ意見を出せるよう雰囲気を作り配慮されている。最近では、現状を考慮して時間帯によりパート職員を増員するなど職員の意見を汲み取っていることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見が言え、楽しく働けてやりがいのある職場を目指しており、研修や講習にも意欲的に参加出来る様な体制を作っている。又、職員との関わりも大切にしていきたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習を受ける事によってスキルアップを図り、勉強会にて報告をしている。職員が皆、研修を受けやすい環境を整えており、介護の質を上げたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム、中部Ⅱブロック会議に管理者と主任が参加している。同業者との意見交換が出来る場で、興味深い会議でもあり参考になっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の話を傾聴し、状況や課題等を把握しながら、一つひとつ困っていることや不安を解消出来る様に一緒に考え、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をじっくり傾聴し、不安や要望を伺い、理解し、ホームで出来ることを話し合えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意向を把握した上で、いくつかのサービスを提案し、現状やニーズに沿ったサービスが受けられる様、話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ目標に向かい同じ作業をし、完成した時、一緒に達成感を得られる。又、利用者と職員は互いに気遣いの声掛けをし、支え合って生活をしている事を実感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族・職員が、お互いにコミュニケーションを図りながら、不安解消出来る様に、よりよい関係を保って行ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設に家族が入所、そこへ訪問したり、知人・友人が訪ねて来られたりして、来設しやすいホームを目指している。また、担当者がホーム便りや、手紙、電話での連絡をするなどのサポートを行っている	冠婚葬祭については、家族の意向に沿って対応されている。墓参りに同行した事例もあるが現在は要望する入居者がいない。散髪については、理容師資格を所持した職員がおり、支援していることが窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや作業や外出先でコミュニケーションが図れている。又、利用者同士がソファに座り会話を楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族と偶然お会いした時は、近況を尋ねている。ご縁のあった方との繋がりは大切にしており、必要であれば相談に乗るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向等を十分に把握し、生活の中での表情や行動にも気を配りながら、家族からの情報・要望を伺い、利用者の思いを少しでも理解出来る様にしている。	入居者の生活歴については、センター方式を活用し入居前に本人や親族から情報を聞き、記入している。困難な方であっても以前のエピソードなどを職員と共有しながら入居者の意向を把握するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、利用者・家族から生活歴等の情報を得て把握する様にしている。入居後はその都度、記録に残し、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を個人ファイルに記録し、排泄表にてバイタル等、一人ひとりの状態を把握出来る様にしている。又、申し送り時に状態の報告を行い、職員全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会で担当者と家族、可能であれば利用者も含め、意見や要望を伺う様にしている。看護師からの医療的な留意すべき点や、他の職員からの情報を収集し話し合い、無理のない介護計画の作成に努めている。	介護計画は計画作成責任者、職員間で話し合い、家族からの意見を聞き作成されている。協力医からの指示や助言などを介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は記録に残していく様にしている。特に家族への報告・重要な事項には、ペンの色を変えたり、線を引いたりして判り易くし、情報の共有をしている。また、業務日誌にも記録する様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、一人ひとりへの柔軟な対応を心掛けており、病院受診・買い物の付添い、又は代行など、色々なニーズに対応出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館役員の方や民生委員の方々のご協力をいただきながら、利用者の方々がそれぞれに合った地域資源を利用され楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、月1回の往診等にて利用者の健康状態を把握している。また、必要に応じて診断結果等を家族へ報告し、その後の対応について話し合いを行ったりしている。	往診は月1回ある。看護師の職員の出勤時間が午前中であり、多くの場合午前中に看護師の職員が同行して受診している。尚、他の職員が同行しての支援もある。かかりつけ医以外での受診については家族の同行をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤3名の看護師が介護職員同様に勤務しており、職員との情報交換にて一人ひとりの状態把握に努めており、医療との連携を図れる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と情報交換を行いながら、早期退院又は今後の対応について相談出来る体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして出来ることの説明を、毎回家族会で説明し、必要な時は個別でも話し合いを行っている。家族の意向を確認し、主治医に報告、全職員で話し合いながら、今後の方針を共有し、支援を行っている。	家族会を通じて、終末期においてホームとしてできることを説明している。職員には重度化した場合の対応についてマニュアルや会議等を通じて共有し、終末期における支援に取組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習等への研修に参加し、実践出来る様になっている。また、定期的に看護師が主になり、対応法についての話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、総合消防訓練を行っており、消防隊員の方に評価をいただいている。又、近隣の方にも火災通報装置への電話番号登録などで参加いただいております。協力体制が出来ている。	年2回消防署の立ち会いのもと訓練を行っている。人命を第一に近隣住民にも協力してもらい、近所に届くように大きな声を出すことや、昼と夜では体制が違うので手順の再確認をしたりと、避難訓練後も検証し確認を徹底している。	利用者情報一覧表へ入居者の車イス等の使用状況(例:半身の写真)と介護保険情報を記載する事に期待したい。また、利用者情報の保管場所は個人情報保護の観点から、人目につくことなく、すぐに持ち出せる場所に保管しておくことが望まれる。備蓄については、消費期限の明記と点検日を決めて対応することに期待したい。また、避難時には入居者が避難したことが一目で分かるよう居室出入口への工夫に期待したい。ハザードマップについては入手しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生活歴や様々な考え・捕らえ方があり、その方に合った声掛けを行っている。職員に対しては、日頃より守秘義務についての話を行っている。	その方の話し方に合わせた言葉かけに配慮するよう努めている。現管理者が入職する前に「ちゃん」づけでの言葉づかいがあったが、管理者による指導により改善されていることが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合った判り易い説明を心掛け、希望や要望をいつでも言える環境を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおまかに出来ているが、業務や行事が優先される事が時にある。しかし、ゆっくりとした流れの中で、一人ひとりに合った1日を過ごせる様に努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びを一緒に行い、髪は本人の意向を聞きながら、理容師の資格を持った職員が思いに合った髪型を楽しめる様、要望をお伺いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の方にいただいた野菜を利用者の方と一緒に皮むきしたり作ったりし、季節を感じながら、旬の物をいただき、食卓もより一層賑やかである。	入居者へランダムに嗜好調査を実施して、献立に反映されている。皮むきや茶碗ふきなど、可能な方には手伝ってもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が増す様に、目で楽しむ事が出来る様、彩りや盛り付けを工夫して提供している。又、個々に合った形態にして、食事を提供する様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った個別対応にて、口腔ケアを実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら、一人ひとりに合ったトイレの声掛け・誘導を実施することによってオムツの量を減らしている。	職員が見計らって入居者に声をかけトイレ誘導を行っている。一人ひとりのパターンを把握し支援している。パットの種類の変更などは試行し、家族の了解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に相談し、一人ひとりに合った排便コントロールを内服薬にて行っている。又、食事療法や毎日の運動にて便秘をしにくい身体づくりを目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりが希望される入浴に合わせた入浴には出来ていないが、なるべくゆったりと入って頂ける様に心掛けている。拒否される方には、時間を置いて声掛けして対応している。	入浴日は基本的に週2回での対応である。風呂の湯は毎日沸かしている。拒否する方もいるが声をかけながら別日でも対応できるように配慮されている。好みに合わせて入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、本人のタイミングで入眠されている。又、安眠していただけに温度や布団の調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の説明書を個人ファイルにいつでも見れる様に保管し、薬の目的や副作用を把握出来るようにしている。臨時薬の処方時や薬の変更時には、業務日誌に記載し、申し送りにて職員は把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意なものを、日中の活動の中に取り込む事で、生き生きとされ、生活に潤いが出て来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中、職員の手薄な時間帯以外は、いつでも出入り出来る様に玄関は開放して、散歩や洗濯物干し等をされている。又、解除の必要な方も散歩や日光浴を楽しんでいただける様に支援を行っている。	月に1~2回の外出支援を行っている。直近では疥癬が増えたことがあり、頻度が減少した。近隣の公園や饅頭屋に散歩に行くなど支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る方には、小額のお金を所持していただき、自分の欲しい物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話連絡が取れる様にしている。手紙も代筆したり、切手を購入しポストに投函したりと支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や習字、壁飾りを随所に飾るようにしている。庭には季節の野菜や花が植えられ、成長を楽しんでおられる。又、リビングでは皆さんでお喋りをしながら、洗濯物をたたんだりしておられ、生活感が漂っている。	共用空間には入居者が作ったものなどが飾られている。入居者は洗濯物をたたんだり、趣味のことをされたりと思っておもいに過ごされている。トイレや浴室なども室温に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファが設置されており、思い思いの場所で、壁飾りを見てゆっくりと休憩を取られたり、お喋りを楽しんだり出来る様に工夫している。又、テラスでは日向ぼっこをしながら、プランターの花を觀賞されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に愛用品や馴染みの物を、一人ひとり持って来ていただき、見慣れた品を置くことで、居心地の良い住居作りの工夫をしている。	居室は家族の写真や入居者が書いた習字など入居者の馴染みのものが多く持ち込まれている。本人本位の居室づくりができており、安心感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレには手すりを設置し、移動し易い様に環境整備をしている。又、判り易い表示で場所を表示している。		